時事新報

明治廿八年十一月廿九日金曜日（庚、辰）
舊曆乙未十月十三日
日出午前六時三十一分　日入午後四時二十七分
月出午後二時十四分　月入午前三時十五分
滿潮午前二時五十二分　午後三時十七分
年始より三百三十三日
年末まで三十二日
（西曆一千八百九十五年）

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

二大鐵橋寫眞版附錄

關西鐵道の二大鐵橋工事竣功して全線既に開通せり其木曾川に架するもの延長二千八百四十四呎、揖斐長良川に架するもの三千二百六十三呎、大河の上に長城を築きたるの偉觀あり此二大鐵橋に名古屋城、伊勢大神宮、京都本願寺の三壯觀を合せ之を小川一眞氏の精巧なる寫眞版に印刷し時事新報の附錄として來る十二月一日廣く購讀者に配布すべし

時事新報

官設鐵道の不便

此程東海道鐵道に乘り京阪地方に旅して歸京したる一友人の談に曰く官線の不便、荷主乘客の苦情は毎度耳に熟する所なりしが實際を目擊して今更らに驚きたり先づ目に着きたるは名古屋の停車場にして諸方よる集まりたる荷物は廣き構內に幾堆の山を築きて既に幾日を經たるやを知らず又今後幾日を費して運び得るや殆んど圖る可らず幸に天氣なれば差支なけれども若しも一たび降雨に遭ひたらんには彼の堆積の荷物は悉皆雨に濡て荷主の損失は如何ならんなど思ひ扨京都に着したるに夜來遑なく雨を催ほしたるにぞ客窓枕を欹てゝ點滴の音に餘所ながら心を惱ましたり夫より二三日を經て歸路、同じ停車場を過ぎしに堆積の荷物は依然山を成せる其廣き面積の上に所斑らに桐油を掩ひたるのみにして恰も畜藥の點々たるに異ならず山積の荷物の中には既に運び去りたるものもあらん又新に到着したるものもあらん其間に出入はありたるならんなれども其多分は山を成したるまゝ雨に濡れたることならん又鐵道開始の頃は上等の車に乘るものは極めて少れなりしが近來一般乘客の增加と共に上等の客も多くして一車十九人乘りの處に二十人以上の客を乘込ましむるが故に窮屈一方ならず中等に乘換へんとすれば上等さへ斯る次第況して中等の如き混雜名狀す可らず止むを得ず車中に立往生の苦を忍び客車の用意ある停車場に至りて漸く苦境を脫するは好けれども之が爲めに更に到着時間延引の苦を見るは平常の事にして友人の如きも現に其苦を嘗めたる一人なりと云へり右は單に一人の經驗談に止まらず世間一般に苦情を訴ふる所にして大阪の商人などは荷物を送るに時日に頓着せざるものは汽車に托すれども急を要するものは汽船に依賴ずるの常なり又發着時間の如き時間表の面には正しく記載しあれども實際には曾て時間通りに到着したることなく其延滯近來に至りてますく甚だし昨年來の戰爭中大鐵道の頻々行はれたる場合ならんには止むを得ざれども平常無事の時に於てさへ斯る始末とは如何の次第ぞやと云ふ近年來乘客荷物の著しく增加したるが爲めに在來の客車貨車にては到底間に合はず明白の數なるにも拘はらず鐵道局は舊に安んじて更に擴張の計畫なく實際に不足なる車輛を使用して無理の働を爲すが故に今日の如き有樣を呈して一般に不便を感ぜしむるものなり顧みて線路の收益如何と云ふに從來とても八九朱の利を見たることなれば本年の如きは一割以上に及びたることならん本來官設鐵道は營利の爲めに非ず一般の便利を目的とするものなれば其益金を擧て擴張の一方に向け車輛を買入るゝなり線路を增設するなり改良を謀るときは其不便は直に去るを得べし甚だ容易なるに似たれども實際に然る能はざるの事情あるは外ならず當局者の言を聞くに汽車の延着も事實なり荷物の溢滯も間違なし或は次第々々に積み遲れて荷をからげたる繩の腐りたるものさへ生じたることもあり敢て白狀する所にして世間の苦情は萬々承知なれども如何ともす可らざるは會計法の規定なり檢査の方法極めて嚴密にして收益の金は一厘一毛の微に至るまでも一切國庫の收入に歸して苟めにも流用を許さず而して支出の豫算は如何と云ふに極々切詰めたる勘定にして現形の儘を維持するの外は一輛の客車、一條の鐵軌と雖も增すことを得ず法の許さゞる處なるが故に止むを得ず今日の有樣に安んずるものなりと云ふ其言を聞けば至極尤もにして如何ともす可らざるが如しと雖も其如何ともす可らざるは只官設の事業なるが爲めのみ商賣人事の繁多なる今の世の中に一般の公衆に斯る不便を蒙らせながら其儘に附し去るとは如何にしても堪へ難き次第なりと云ふ可し

雜報

○京城特報

京城十一月十八日　前田生

●滯韓中の井上大使●

井上大使は去る十五日王城に參內し大君主陛下に謁見して御暇乞ひを爲し再昨朝午前五時公使館を發し一行の人々十數名と見送り人數十名と共に龍山に到り御用船安來丸に乘じて下仁し今朝御用船南越丸にて愈々出發したりと云ふ初め伯の渡韓せんとするに方り韓廷の內閣員は何れも危疑百出伯果して渡韓する曉には恰も百雷の一時に落ち來るが如く先づ第一に責問を受くるならんと誤想したりき故に伯の仁川に着するや朝鮮政府は特派大使歡迎員を撰定したれども進んで其任に當らんことを望むものなくその任は遂に俞吉濬氏に歸したれども流石の同氏すら之には頗る當惑せるものゝ如く言を左右に托して頻に往くべき模樣なかりしが斯くてあるべきにあらざれば遂に意を決して出迎ひの爲めに出發したる位なりし斯て伯愈々入京し內閣員代るく伯に面會すれども伯は始終溫容柔顏、政變事件に關しては又一の激語すら漏さゞりしに至つては蓋し內閣員の意外に感ぜし所ならん又伯は滯京中大君主陛下に謁見すると兩回而して特派大使として奏聞すべき儀式的の事項の外敢て一語の他に及びたるとなしと云ふ之を要するに韓廷の閣僚は既に特命全權公使たりし時の伯を知れり又韓廷の最高顧問としての伯を知るのみならず伯の性質萬事に關し忠言切々倦むなきをも亦能く知れり故に今回の事件に關し假令ひ其名は慰問大使にせよ胸中必ず幾多の善後策を畫して渡韓し韓廷も亦爲に幾多の變動を受くるならんと信じたるが如し故に伯渡韓後の狀況を看て何れも案外なる思ひを爲したると同時に尙ほ幾分の望を後來に屬し竊に依賴するの傾向ありしも伯は豫期に反し空しく歸朝の途に上りたるを以て內閣員は頗る一驚を喫したりといふ然れども今回の事たる素より朝鮮の內事に止まるを以て假令ひ伯にして渡韓するも妄に朝鮮國內のことに手を着くることなく又實に手を着くべき方法なきを確信したり而して果して斯くの如くなりしと然りと雖も伯の滯京は僅に旬五其間外國公使館を訪ひたることも亦兩三回、外國使臣の伯を訪ひたることも兩三回、伯は例の熱心なる而して最も丁寧なる辯舌を以て政變事件の始末を語り併せて日本政府及び日本帝國臣民の意思にあらざる旨を繰返して說明し遂に外國使臣をして其疑心を氷解せしめ昨今に至ては遂に日本の朝鮮に對すること從來の如く而して守備隊亦依然王城の警備を爲すべしと唱ふるに至りたりと云ふ外國使臣にして既に甚しき異議なくんば朝鮮國內の善後策は易々たるのみ然らば則ち伯は善後策を講ずる爲めに渡韓したるものにあらずと雖も伯の渡韓は自ら善後策となりたるものなるや明かなり韓廷の閣僚たるもの伯に對して萬謝せざるべけんやと說くものあり

●皇帝進號の一理由●

大君主陛下に皇帝の尊號を奉らんとの議は外國使臣の反對に依り遂に中止となりし事は疾に報道せし所にして我輩は當初より重を置ざりしも此頃一韓人あり進號の理由を說明して曰く我邦が昨年來淸國の藩屬を離れたることは僻陬の隱士亦能く之を知ると雖も近來に至りては却て日本の屬國となりたるにはあらずや抔との疑心を挾むもの多く現に地方の人士中屢々斯る言を口にして民心を騷擾せんと企つるものあり殊に過般の政變以來は物情恟々一層の疑心を加ふるの傾向あり斯ては實に由々しき大事に到らんも圖り難きを以て寧ろ此際皇帝の尊號を奉り我朝鮮國は決して他國の附庸にあらざることを普く證明せんが爲めに進號の議を決定せしのみ即ち民心鎭壓の一方便に過ぎざりしのみ然るに外國使臣は事々しく之に異議を挾む其深意の程を解し難しと云々と云へり

●故閔后は耶蘇敎信者なり●

京城在留の外國人中最も勢望を有するスクラントン及びアンダーウッド夫人は閔后在世の時には常に王宮に出入しつゝありて人其何の故たるを知るもの絕えて稀れなりしが昨今に至りて故閔后は耶蘇敎の信徒なりしことを發見せり而して同敎の爲めに財產を費消したるもの頗る夥しく或は敎會堂を新築し或は宣敎師の邸宅を修め其他種々の事に財を投じたるその金額尠からず故閔后が在留外人中に評判宜しきは蓋し之が爲めなりと云ふ昨年六七月頃に於ける閔后の現在所有金は凡そ五六十萬圓と稱す然るに政變後取調べたる結果に據れば僅に十五萬圓を餘すに過ぎざりき此の消費額は即ち閔后が舊勢を挽回せんと欲し密に內外人に與へたるものにして閔后の威權赫々たりし所以にして過日の政變の痛く在留外人に刺戟を與へたる所以のものも亦是等の關係與りて力あるべしと云ふ

●某大臣●

近來剛直の名ある
を以てす大臣徐に
るべきものなし全
相等は決死隊なり
此等の人々を以て
は云ふ迄もなし云
某大臣直に答へて
たる虎なりと云ひ
近狀を評し盡して

●全州の●

全州府に鎭衞一大
きを以て工兵隊馬
んとしたり然るに
を再設し度支部に
度支部は堅く執へ
茲に於てか同鎭衞
大に窮乏し同府
り而して觀察使
方の人民より雜稅
に新稅を徵收す
如く雜稅に依て
は茲に全く費目
らざれば坐して
なる次第なり

○北海道官林

民地を擴張する
して殖民地へ編
振後志三箇國の
を解除したるよ

○實業敎育費

郡鶴岡町々立鶴
實業敎育費國庫
間一ヶ年金七十

○第十回彫刻

京彫刻會第十回
を執行せしが當日
員出品人、新聞記
於て式を擧げ一
頭に呈して審査
りて會頭より一
製造人總代濤川
午後三時半なり

○濟寧館の

手は一昨廿七日
ある濟寧館に於て
就きては賢き邊
物品を下賜され
ふ憲兵及び警視
達せし人々は招
といふ

○歌舞伎座の

衛門、我を追跡
雪に掻き埋め
廻り相變らず勇
返へす餅に不審
に導かれ互に
師匠にて雙方